

【保健・医療・福祉部会】庁内・審議会合同部会 議事録（要旨）

開催日・出席者等

開 催 日 時 令和7年7月8日（火） 14時15分から15時40分まで
場 所 山ノ内町文化センター 3階ホール
出 席 者 審議会部会員5名、庁内部会員6名、事務局1名 計12名

協議状況（会議事項）

第1節 希望の出会いと安心して子育てできる郷土づくり

1. 出会い～子育て

【審議員1】

子育てアプリの対象世帯はどのように設定されており、実際にどれほどの家庭に普及しているのか。

【庁内1】

対象は小学校6年生までの子育て世帯であり、ほぼすべての対象世帯が利用している。利便性が高く、今後も子育て支援の基盤として活用していきたい。

【審議員1】

子育てアプリは所管でしか情報発信に使用していないのか。

【庁内1】

明確な連携はないが、その都度、各課から依頼を受けて情報発信やアンケート調査を配信することがある。アプリ利用者は子育て世代のみであるため、ターゲットを絞った発信が可能である。

【審議員1】

令和6年度の結婚新生活支援事業補助金の利用状況はどうか。

【審議員2】

令和5、6年度はそれぞれ2件の利用実績があった。

2. 児童福祉

【審議員1】

放課後児童クラブの受け入れ体制は、町内の保護者の需要を十分に満たしているのか。

【庁内3】

現在のところ定員を超える申込はなく、すべての希望者を受け入れている。長期休暇のみの利用も多く、柔軟な運営を行っている。ただし職員が不足しており町職員が対応することもある。

第2節 いきいきと元気に安心して暮らせる健康寿命郷土づくり

1. 健康増進

【審議員1】

町が実施している健康ポイント事業について、その制度の仕組みと住民の利用実績を教えてください。

【庁内1】

検診受診や健康教室参加などでポイントを付与し、100ポイント貯まると町内で使用できる商品券や楽ちんバス券等と交換できる10年程度継続している制度である。(100ポイントで600円の価値がある。)令和6年度は514人が参加している。今後も事業の充実を図りたいと考えている。

2. 地域医療

【審議員1】

全国的に外国人居住者の国民健康保険税の滞納が問題となっているが、町内に暮らす外国人居住者の保険税滞納の実態やその対応はどのようにしているか。

【庁内4】

全国と同様の状況である。なお、国民健康保険税は前年所得に基づいて算定される制度設計となっており、外国人の場合は算定が困難であることから現在国で見直しの議論が進んでいる。国から基準が示されればそれに従ってやっていくことになると考えている。

第3章 地域の絆で支えあう福祉の郷土づくり

1. 地域福祉

【審議員1】

「住民支え合いマップ」の取り組みの現状は。

【庁内2】

現在7地区策定済み。最近では新たに策定したところはない状況である。全体で15地区において策定する予定となっているが、個別避難計画等の策定優先している事情もあり、今後は社会福祉協議会と共同で進めていきたいと考えている。

区の役員が2、3年で交代となるため役員の中に温度差もあり、取り組みが進まない現状も垣間見えている。

【審議員1】

災害時に地域として支えるべき方々がいるから作る必要があるものという認識が広がれば、機運を醸成できるのではないかと。

【審議員2】

社会福祉協議会が町から委託を受けて取り組んでいる事業でもあるので、社会福祉協議会としても取り組みを進めていく必要があることは認識している。各市町村内で全地域を賄っている自治体はあまりないと認識しているし、そもそもこの取り組み自体が下火になっているようである。

【審議員 1】

個別避難計画は法律上義務であるため、この取り組みは優先順位が低いのではないかと。個別避難計画と合わせて1本化することも考えるべきでは。

【審議員 1】

民生児童委員の配置数が現在の地域の実情に適していないのではないかと考えているが、町として定数の見直しを検討しているか。

【養田福祉係長】

国基準（70～200 世帯に1名）に基づき配置しているが、町としても地域の実情に応じた見直しを検討している。現場の声を受け止め、体制整備を進めたい。

【審議員 3】

常に気を使う方が増えているのは実情。大変にならないように新しい形を模索している。「大変だよ」と言うと次に担ってくれる方がいなくなってしまう。無理のない範囲でと言われて活動しておりその点ありがたい。

【審議員 1】

町単独として民生児童委員を増やすことは可能か。

【庁内 2】

定数自体が県の条例で定められており、3年に1回ずつ見直しを県に要望して決定される。

【審議員 1】

減らした方が良いと言う意見も聞いたことがあるが、現状としては増やし、皆で少しずつ役割を担うべきだと思う。

【庁内 2】

増員については、今後の検討課題とさせていただきたい。

2. 高齢者福祉

【審議員 1】

高齢者向けの基本チェックリストの配布数と回収率について確認したい。

【庁内 4】

8割程度回収ができています。提出率向上を目指して昨年度からQRコードによる回収を導入している。

【審議員 1】

提出する人・しない人でどちらがより医療費がかかるかなどは分かるのか。

【庁内 4】

明確にはわからないが、やはり提出しない方は検診を受けない方もいると承知している。その様な方に限って、いざというとき対応に苦慮するため、町の看護師等が地道に訪問し、健康な時からその方々の状況の把握に努めている。

【審議員 1】

今後75歳以上の高齢者人口が増加していく中、健康啓発の要素は非常に重要である。

【審議員 2】

まちづくりアンケート設問 14「山ノ内町をどのような町にしたいか」に関して、保健・福祉・医療分野は関心度で 5 番目と一定の位置にあるものの、「福祉の充実」は前回より順位が下がっており、住民意識の変化が伺える。これは、他分野への関心の高まりや、保健福祉医療の達成度が高いために関心が相対的に下がっている可能性がある。

しかし、町として今後の福祉施策を考える上では、こうした関心度の変化を「満足ゆえの関心低下」と捉えるのか、「他の分野への期待の高まり」と捉えるのか、前回調査との比較も含めて丁寧に分析する必要がある。

また、全国的に福祉・介護人材を志す若者が減少し、地域との関わりやボランティア精神も薄れてきている。町内でも介護職員の不足が顕在化しつつあり、今後はケアマネージャーの担当件数の限界や、サービスを受けられない高齢者の増加も懸念される。

社会福祉協議会や町内の事業所も含め、将来的なサービスの維持・確保のために、現状を把握したうえで先を見据えた分析と対応が求められる。

以上